

# 「令和元年度教育振興運動推進方針と重点的取組」 について



岩手県教育委員会事務局  
生涯学習文化財課

# これから本県がめざす「地域と学校の連携・協働」

## ◇ 既存の体制や取組を活用

いわて型  
コミュニティ・スクール

教育振興運動

放課後子供教室  
学校支援活動 等

## ◇ より適切で効果的な連携・協働

持続的な仕組みや活動として  
さらに充実させていく



# 持続的な仕組みや活動として さらに充実させていく

## 令和元年度「教育振興運動」推進方針

岩手県教育委員会

令和元年度「教育振興運動」推進方針  
岩手県教育委員会

### I 目標

「みんなで教養！5か年プラン」の取組の成果を検証・共有するとともに、「いわて県民計画2019～2028」及び「岩手県教育振興計画」に基づき、教育振興運動の発展・拡充を図ります。

### II 現状と課題

#### 1 全県共通課題「情報メディアとの上手な付き合い方」について

(1) 現状  
昭和40年に取組が始まった教育振興運動は、以来、岩手県の教育環境の整備充実と大きな役割を果たしてきました。現在も、社会参加活動や自然体験活動などの多様な「地域学校協働活動」が県内各地で展開されています。  
平成27年度から取組んできた「みんなで教養！5か年プラン」は、2019年度が最終年度となります。本プランの全県共通課題である「情報メディアとの上手な付き合い方」は、H30年度には県内のおよそ3/4の実践区（小・中・義務教育学校の約9割）において継続的に取り組まれています。  
また、これまで目指してきた「全県共通課題の取組と、子どもの未来のために価値のある活動（読書活動、体験・交流活動等）の相乗効果を期す考え方（有機的な運動）に留意した取組」についても、H30年度調査<sup>※1</sup>において約9割の市町村・地区から「両者がバランスよく推進されている」という回答を得ており、5か年プランの取組が県内各地域で着実に推進されてきたことが窺えます。  
しかしながら、「情報メディアとの上手な付き合い方」に取り組んだ成果については、H30調査において「非常に高い」「おおむね満足できる」成果があると回答した市町村・地区はおよそ1/4であり、「成果を上げつつある」という回答割合を加えても、なんらかの成果を認めている市町村・地区は全体の3/4程度に留まっているのが現状です。

(2) 課題  
取組状況については一定の進捗が見られるものの、その成果について十分に確認・共有されていない（明らかになっていない）傾向にあることが、全県共通課題の推進に関する大きな課題であるといえます。  
また、H30及び過去の調査結果から、この課題は、全県共通課題の推進のみならず、教育振興運動の取組全般にわたる長年の課題であるということが窺えます。

全県共通課題と地域の教育課題の取組のバランス (H30)

非常に高い成果	6.5%
おおむね満足できる成果	4.9%
成果を上げつつある	4.3%
成果があるが課題	84.8%
成果がみられない	0%

全県共通課題の取組による成果 (H30)

非常に高い成果	2.2%
おおむね満足できる成果	4.3%
成果を上げつつある	21.7%
成果があるが課題	50.0%
成果がみられない	21.8%

※1 「教育振興運動推進状況調査」  
教育振興運動の推進体制や取組状況を把握することを目的に、各市町村における運動推進担当者を対象に県教委が毎年実施している調査。

### 2 地域と学校の連携・協働の体制について

(1) 現状  
本県では、半世紀以上前から、教育振興運動の「市町村推進協議会」や「実践区の組織」等、それぞれの地域や学校の実情に応じた推進体制が整備され、地域と学校が協働して行う様々な活動が積極的に展開されてきました。H30調査によると、県内全ての市町村で教育振興運動が推進されており、その基礎単位となる実践区（学校区など）は合計で500地区に上ります。  
実践区の種類は、小・中学校区としている地区が約6割と最も多く、事務局についても、多くの地区が小・中学校に設置しています。しかし、小・中学校区での仕組みは近年減少傾向にあり、推進体制のあり方については、各地域・学校の実情に応じて多様化してきています。

実践区の種類別の割合 (H30)

実践区の種類	割合 (%)
小中学校区	35.4
中学校区	19.2
公民館区	7.0
町内会等	22.0
その他	15.4

事務局の設置場所別の割合 (H30)

事務局の設置場所	割合 (%)
小学校	44.6
中学校	15.9
公民館	10.3
町内会等	7.6
その他	16.1

このような推進体制のもと、長年にわたり自主的・継続的な活動が進められてきましたが、その一方で、多くの市町村・地区が推進体制に関する課題を抱えています。  
最大の課題は、H30調査において約7割の市町村・地区が課題として回答した「活動に関わる大人が限られているなど、地域全体の活動になっていない」ことでした。過去の調査と同様においても、毎年高い割合で挙げられています。  
その他、「市町村推進協議会の構成や人材が難しい」「適切な実践組織（実践区）の規模や事務局の設置場所に悩んでいる」という回答を含むと、推進体制に関して何らかの課題を抱えている市町村・地区は、県内の約8割に上ります。  
県教委では、平成30年度の重点的取組として「組織や活動のあり方の見直しや検討」<sup>※2</sup>を進めることを提唱してきましたが、実際に見直しや検討を進めている市町村・地区は全体の約15%に留まっているのが現状です。今後進める予定という回答を含めると、進める予定がないという回答も4割ありました。なお、推進体制に関して何らかの課題を抱えている市町村・地区に限定した場合でも、見直しや検討を進めているのは約14%、今後進める予定という回答を含めると7割弱、進める予定がないという回答が3割弱となり、「課題の有無」と「見直しや検討の進捗状況」について、大きな相関は見られないのが現状です。

(2) 課題  
多くの市町村・地区が推進体制について何らかの課題を抱えているにも関わらず、具体的な見直しや検討を進めていない（進められない）傾向にあることが、地域と学校の連携・協働の体制を整える上で大きな課題であるといえます。  
子供の力を取り出す環境や学校が抱える課題が複雑化・多様化する中、地域と学校の連携・協働がより進捗効果的にされるよう、組織的・構造的に推進できる体制を再整備することが求められています。教育振興運動の体制を、地域や学校の実情に応じた今後のように活用していくのか、本県が導入を進める組織的・継続的な学校の体制である「コミュニティスクール（学校運営協議会制度）」の推進も踏まえ、その考え方を整理し、具体的に検討を進めることが喫緊の課題となっています。

「組織や活動のあり方の見直しや検討」に現在取り組んでいる割合

見直しや検討を進めている	37.0%
見直しや検討を今後進める予定	15.2%
見直しや検討を進める予定はない	47.8%

※2 「組織や活動のあり方の見直しや検討」  
「関係者が広がりをもたせる取組が行われているか」「活動や運営の負担が一部に偏っていないか」等の観点により、組織や活動のあり方の見直しや検討を進めます。

各市町村・実践区  
で活用



推進方針の説明に入る前に

## 「教育振興運動」（略して『教振』）とは

- ◇ 教育振興運動は、学校、家庭、住民等が総ぐるみで、地域の教育課題の解決に自主的に取り組む岩手県独自の教育運動です。
- ◇ 昭和40年に、県内各地で地域をあげて学力向上のための取り組み（読書運動など）を行ったのが始まりで、以来、本県の教育水準の向上、子どもの健全育成、家庭や地域の教育力向上など、岩手県の教育環境の整備充実に大きな役割を果たしています。



## 運動の特徴①

- ◇ 子ども、家庭、学校、地域、行政の5者が、  
それぞれの役割を果たしながら、相互に連携して  
進める運動です。



### 5者の目標・責任（一例）

子ども	…	学習意欲を高める
家庭	…	家庭教育を充実させる
学校	…	学校教育を充実させる
地域	…	地域社会の教育環境を整える
行政	…	さまざまな教育条件を整備充実させる

## 運動の特徴②

- ◇ 地域が抱える子どもたちの教育課題を地域単位で人々が話し合い、運動の計画を立て、地域の特色を生かして自主的に解決しようとする実践的運動です。
- ◇ 子どもや親の自発的な取組みに加え、多くの大人が子どもたちにかかわり、地域全体で子どもたちをはぐくもうとするところに特色があります。

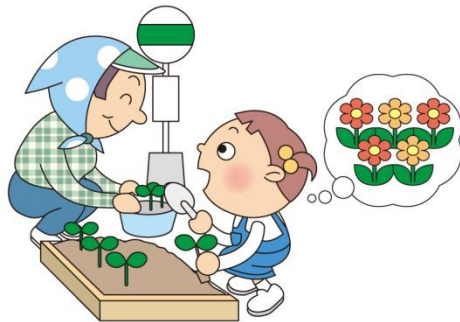


## 時代の教育課題に取り組んできた運動①

運動が始まった昭和40年代と現在とでは、社会経済や家庭生活の状況が大きく変化しています。運動内容は、その時々の子どもたちの置かれている状況や社会情勢を反映して、工夫されてきました。

◇運動開始当時 ... 主に、「**学力向上**」をめざし、家庭で勉強机や勉強部屋の確保や、読書の推進運動などに取り組みました。

◇昭和50～60年代 ... 青少年の非行や校内暴力が多く起こったこともあり、あいさつ運動や美化運動、体力づくり運動なども取り入れ、「**健全育成**」や「**健康安全**」の分野にも広く取り組むようになりました。



## 時代の教育課題に取り組んできた運動②

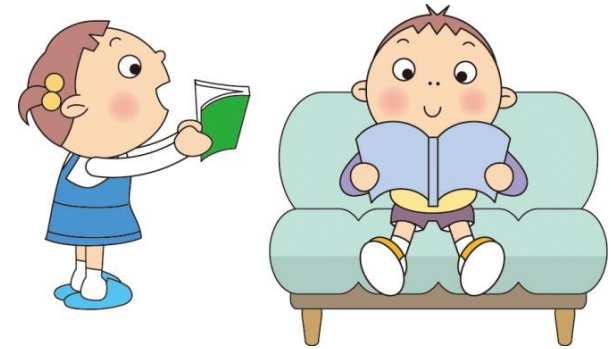
◇現在 ... 子どもたちに生涯学習の基礎を身につけさせるとともに、いわゆる「生きる力」をバランスよくはぐくむため、地域の特色を生かしたさまざまな**体験活動**などが取り入れられるなど、**幅広い運動**が行われています。





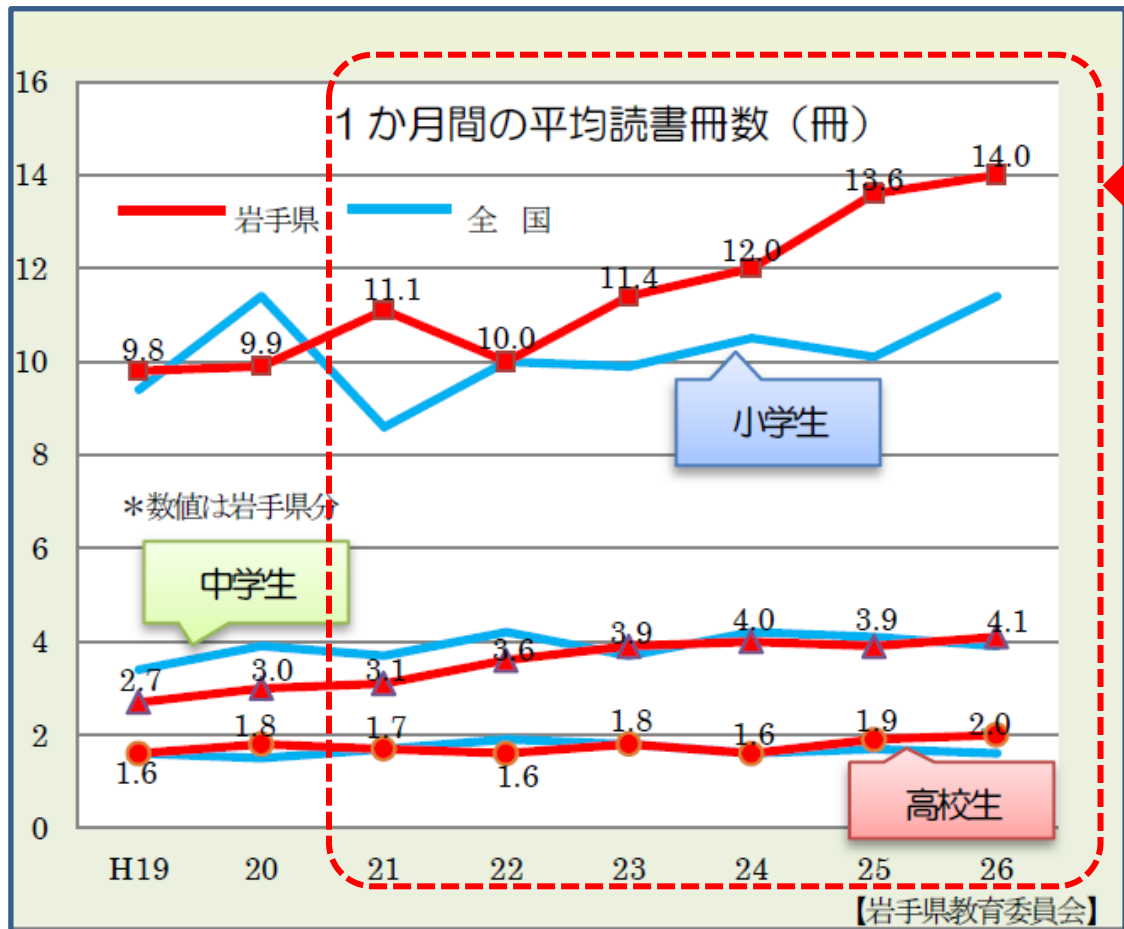
## 時代の教育課題に取り組んできた運動③

◇現在 ... 近年、岩手県の子どもたちは、テレビの視聴が多く、家庭学習や家庭における読書時間が短かったことから「**家庭学習の充実**」と「**読書活動の推進**」を**全県共通課題**として提唱し、その成果をあげています。



また、平成23年の東日本大震災津波により新たに生じた教育課題の解決のために平成24年度より「復興教育」の観点を追加しました。

# これまでの取組の成果（平均読書冊数の増加）



全県共通課題  
の取組期間  
(H21~26)



## みんなで教振！5か年プラン①

- ◇「みんなで教振！5か年プラン」とは  
平成27年度から31年度までの5年間、新たな全県  
共通課題「情報メディアとの上手な付き合い方」と地域  
の教育課題の解決に向けて、両者の取り  
組みを**バランス良く**  
推進することを通して、教育振興運動の  
基本理念に基づいた  
運動の一層の活性化  
を図ろうとするもの  
です。



## みんなで教振！5か年プラン②

- ◇ 急速に普及しつつあるスマートフォン等の情報メディアは、情報の入手やコミュニケーションツールとして非常に便利ですが、一方で、個人情報の流出等により事件や犯罪に巻き込まれる危険性も高まっており、子どもの学力や体力の向上、基本的な生活習慣の確立等にも様々な影響を与えることが懸念されています。
- ◇ これまでもテレビやゲーム等の情報メディアの使い方については、問題点が指摘され様々な取組を行ってきていますが、改めて子どもや大人の情報メディアの使用実態をきちんと把握し、これまで以上に身近な教育課題となっていることを共有するとともに、地域ぐるみで自主的・自立的な取組を進めることが必要です。



## みんなで教振！5か年プラン③

- ◇ また、問題があるからと言って大人側が一方的に規制するのではなく、学びを通じて児童生徒の意識が変わり、自らより良い使い方を考え「情報メディア」と上手に付き合っていける力を育てていくことが重要です。



## みんなで教振！5か年プラン④

- ◇ 同時に、多様な体験・交流活動の機会の創出による地域課題の解決に取り組み、身の回りには情報メディアとは違う楽しく有意義なものがたくさんあることに気づかせるとともに、**直接的な体験・交流によって情報モラルのもとになる豊かな心を育む**ことで、情報メディアの上手な使い方にもプラスの効果を波及させることを目指しています。



## I 推進目標

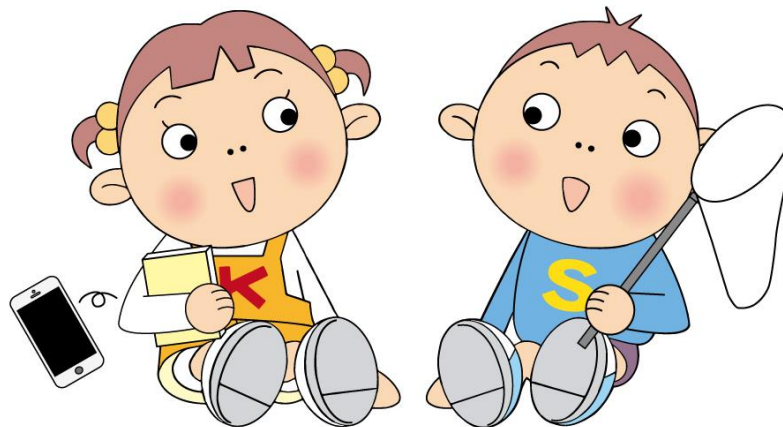
「みんなで教振！5か年プラン」の  
取組の成果を検証・共有するとともに、  
「いわて県民計画2019～2028」及び  
「岩手県教育振興計画」に基づき、  
教育振興運動の発展・拡充を図ります。



## Ⅱ 現状と課題

### 1 全県共通課題

「情報メディアとの  
上手な付き合い方」について





## Ⅱ 現状と課題

# 「みんなで教振！5か年プラン」 (平成27～31年度)



全県共通課題  
「情報メディアとの  
上手な付き合い方」



地域の教育課題  
「多様な体験、交流  
活動等」

両者の取り組みを **バランスよく** 推進

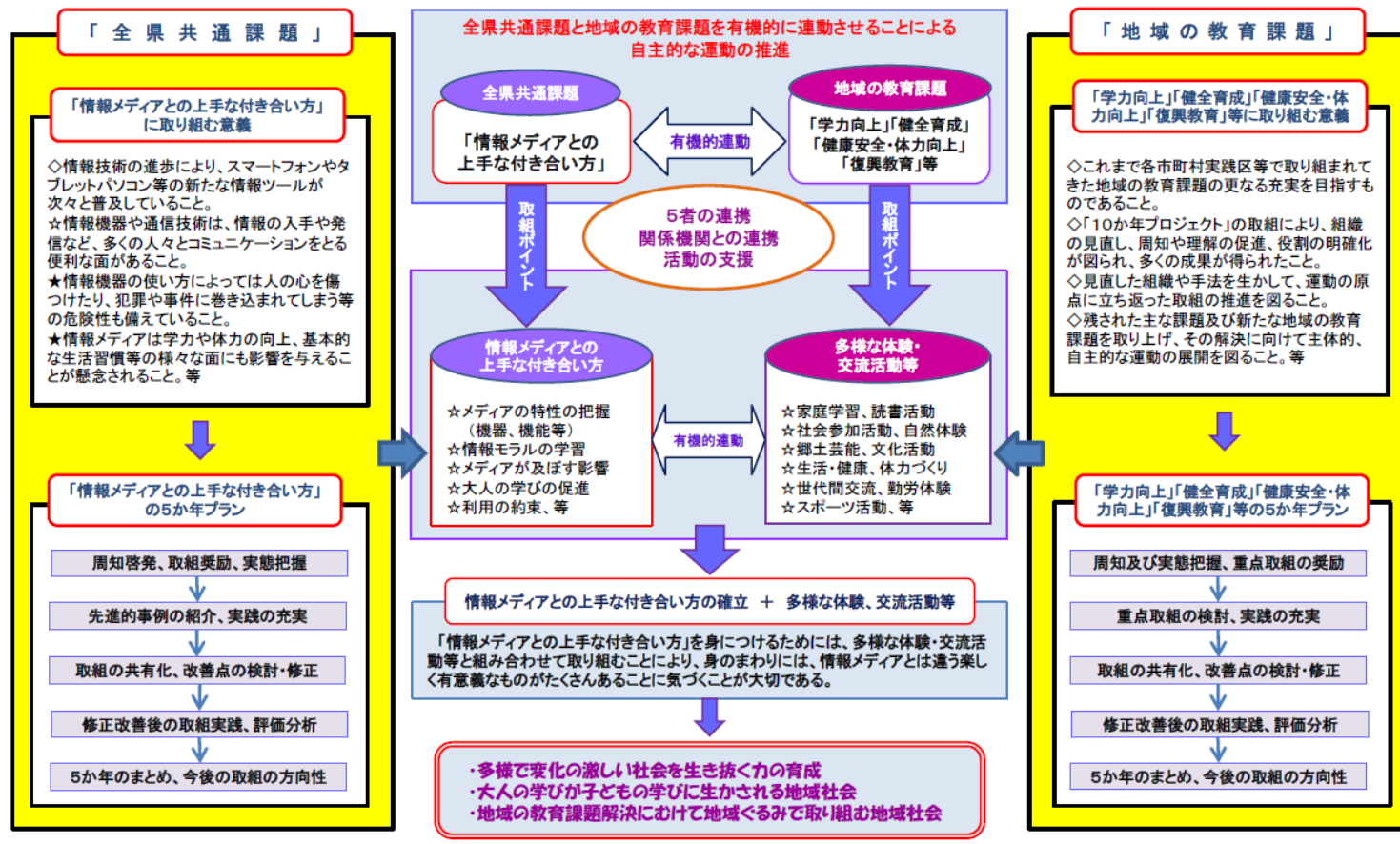
**運動の一層の活性化を図る**

# Ⅱ 現状と課題

## 「みんなで教振！5か年プラン」(H27～H31)

「みんなで教振！5か年プラン」とは、平成27年度から5年間、全県共通課題と地域の教育課題の解決に向けて、両者の取り組みを有機的に運動させながら推進することを通して、教育振興運動の基本理念に基づいた運動の一層の活性化を図ろうとするものです。

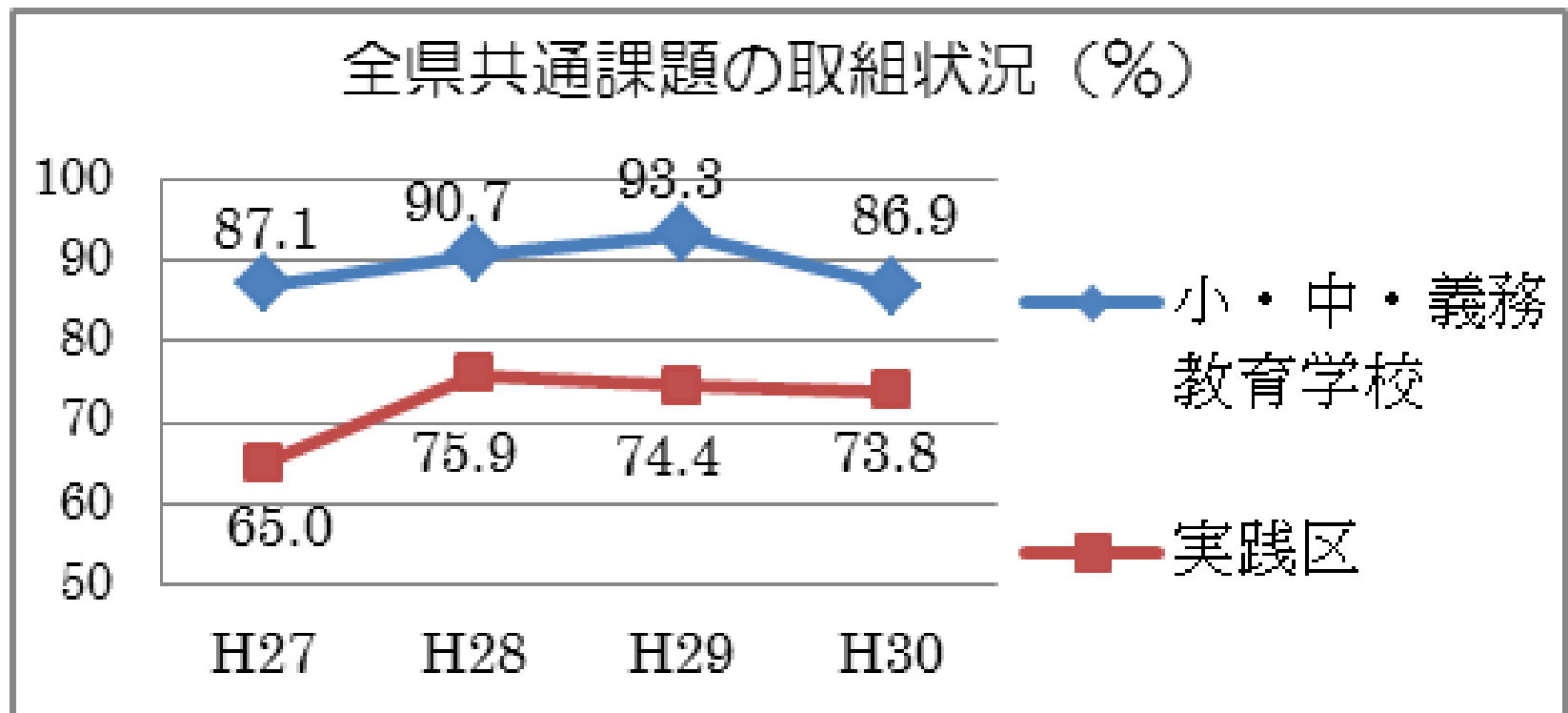
### 「全県共通課題」と「地域の教育課題」の2本柱



## Ⅱ 現状と課題

### 全県共通課題

### 「情報メディアとの上手な付き合い方」



H30教育振興運動推進状況調査

## Ⅱ 現状と課題

全県共通課題

「情報メディアとの上手な付き合い方」



昨年度県内各地域で取り組まれた事例（一部抜粋）

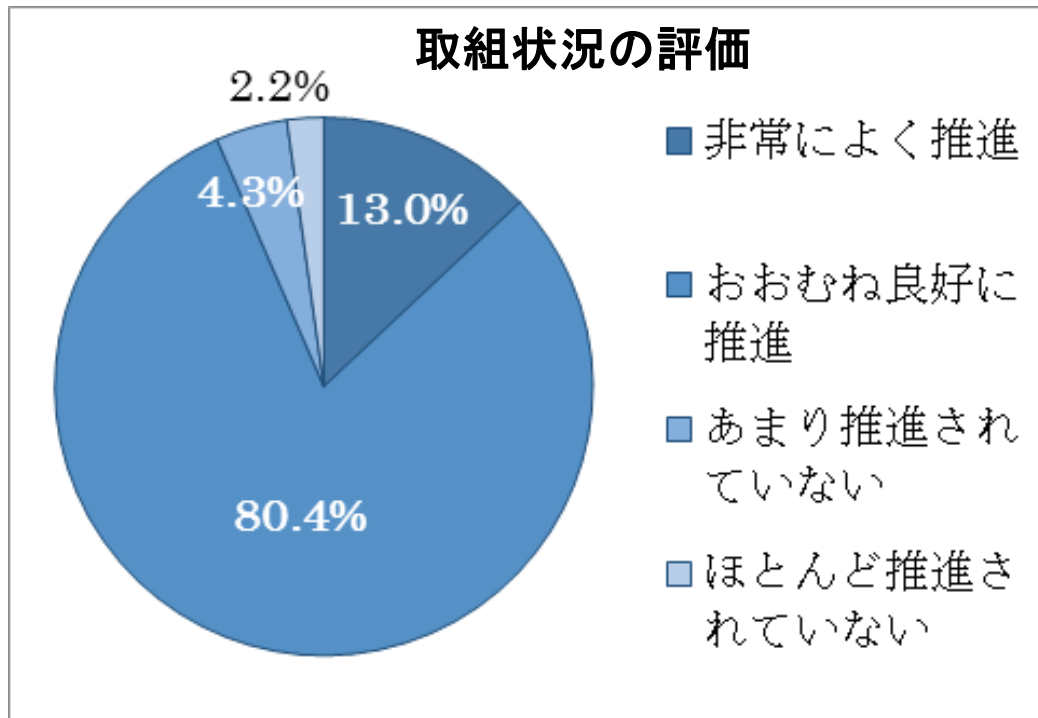
- 小中学生による「話し合い」→「ルール作り」→「ポスター作成」
- 各学級での「話し合い」→各家庭での「実践」
- 「アンケート」→学校・家庭での「話し合い」→「ルール作成」
- 小学校・中学校が連携した「ノーメディア等の取り組み」
- 親子で参加する「研修会」「講演会」

H30教育振興運動推進状況調査

## Ⅱ 現状と課題

全県共通課題

「情報メディアとの上手な付き合い方」



**情報メディアの取組が県内各地域で着実に推進**

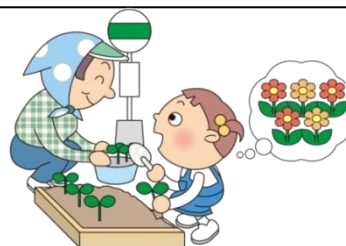
H30教育振興運動推進状況調査

## Ⅱ 現状と課題

### 地域の教育課題

### 「多様な体験、交流活動等」

- 読書運動やあいさつ運動
- 花いっぱい運動
- クリーン作戦
- 自然体験活動
- ボランティア活動
- 郷土芸能の伝承活動
- 世代間交流
- スポーツ・文化活動
- 中高生の社会参加活動



一実践区あたり

平均**8.45件**の  
主題に取り組んでいる

など

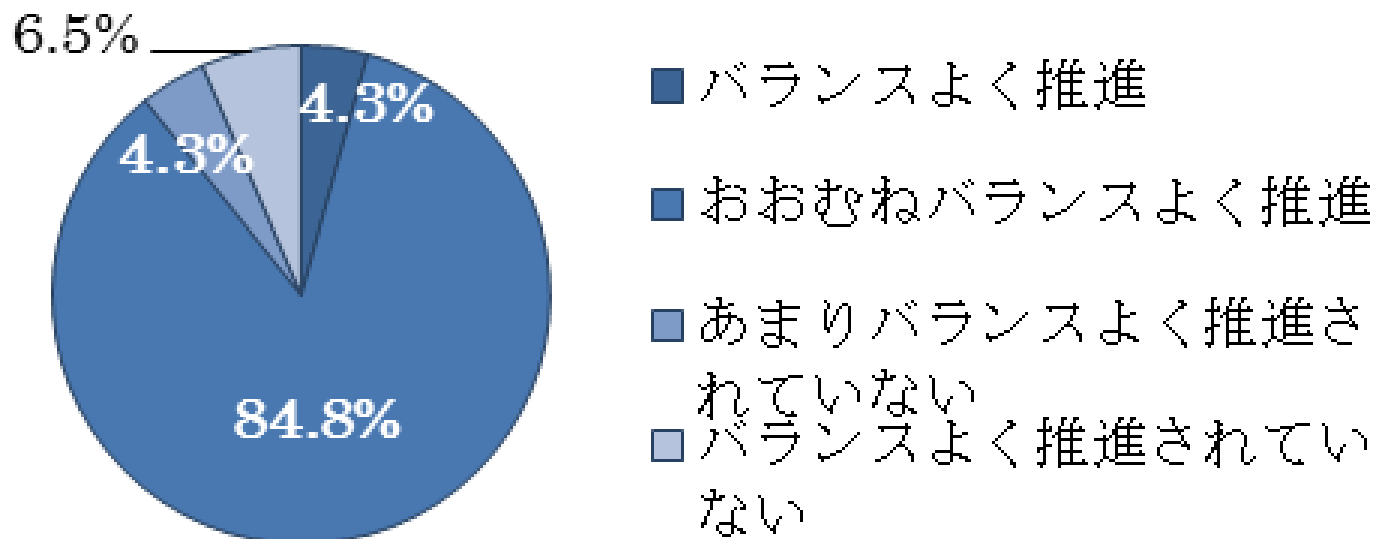


H30教育振興運動推進状況調査

## Ⅱ 現状と課題

### 地域の教育課題 「多様な体験、交流活動等」

全県共通課題と地域の教育課題の取組のバランス（H30）



**5か年プランの趣旨が県内各地域に浸透**

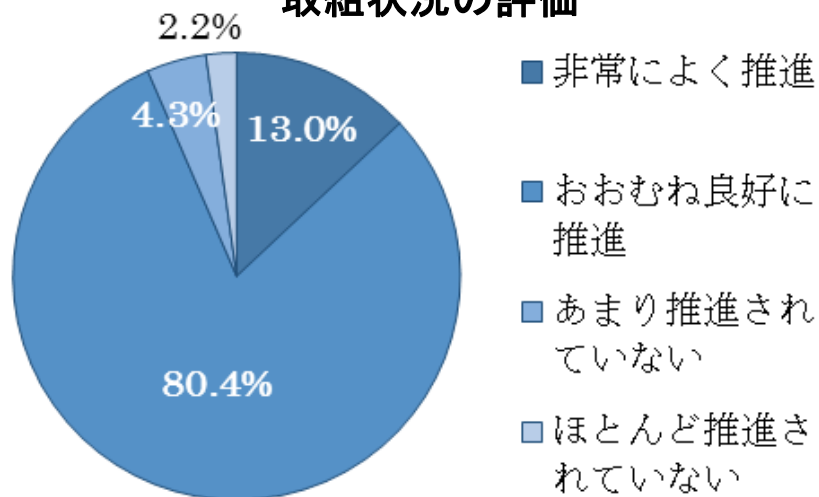
H30教育振興運動推進状況調査

## Ⅱ 現状と課題

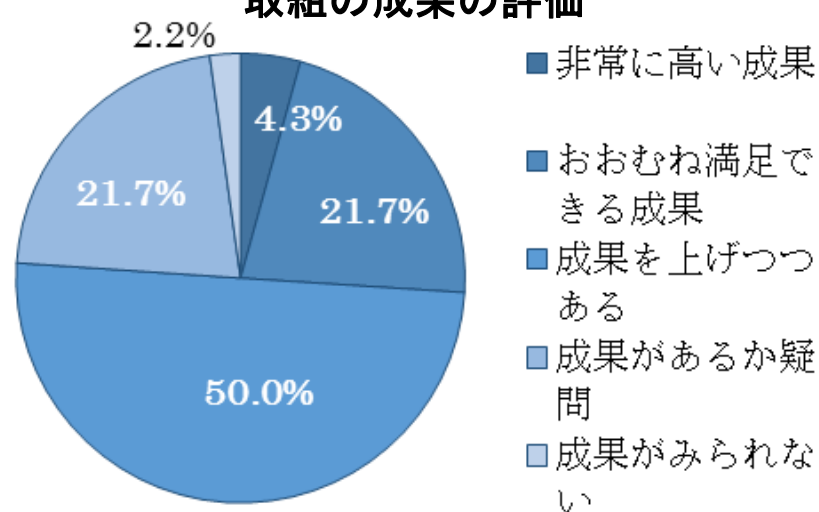
### 全県共通課題

### 「情報メディアとの上手な付き合い方」

取組状況の評価



取組の成果の評価



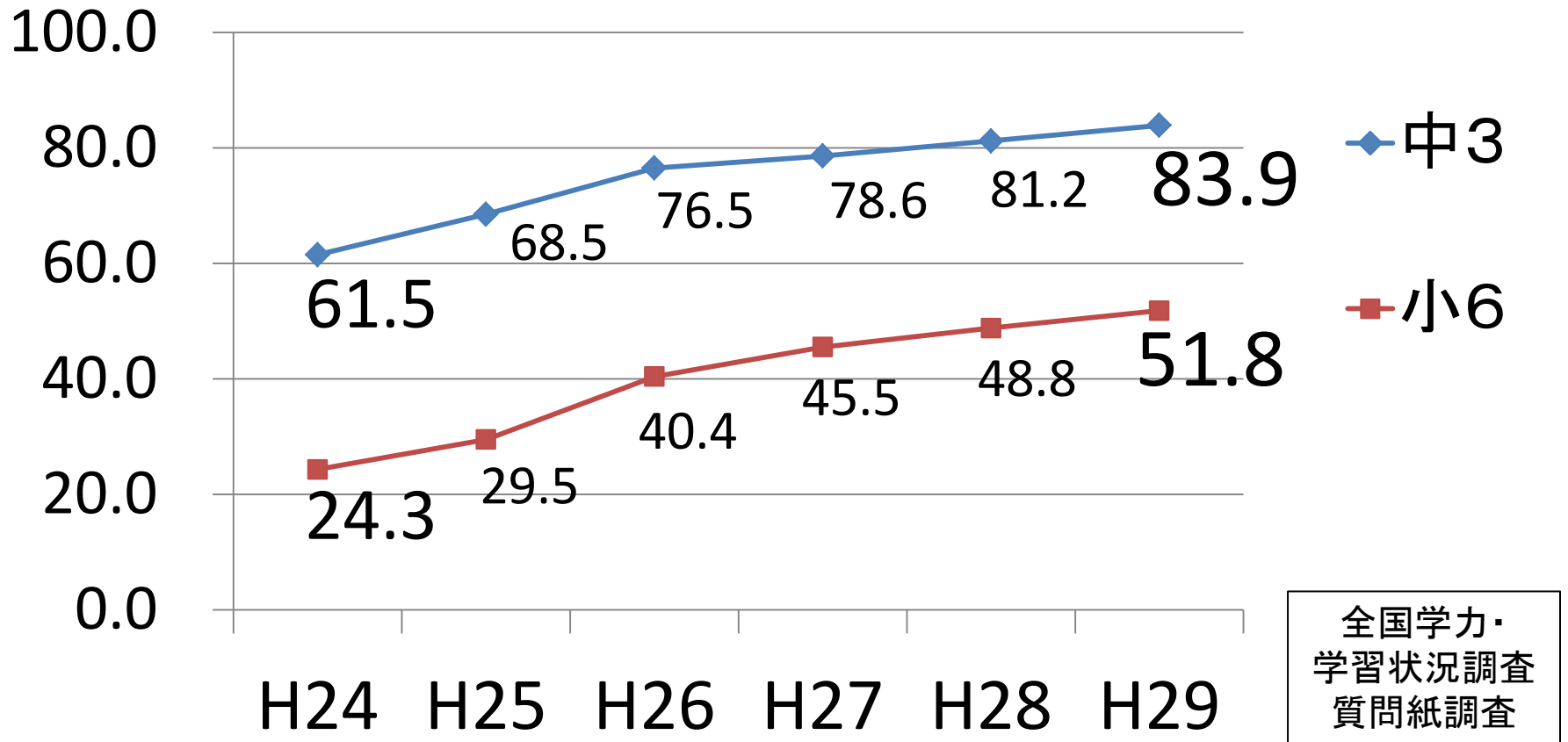
取組状況については一定の高まりが見られるものの、**その成果について十分に確認・共有されていない(明らかになっていない)**

H30教育振興運動推進状況調査



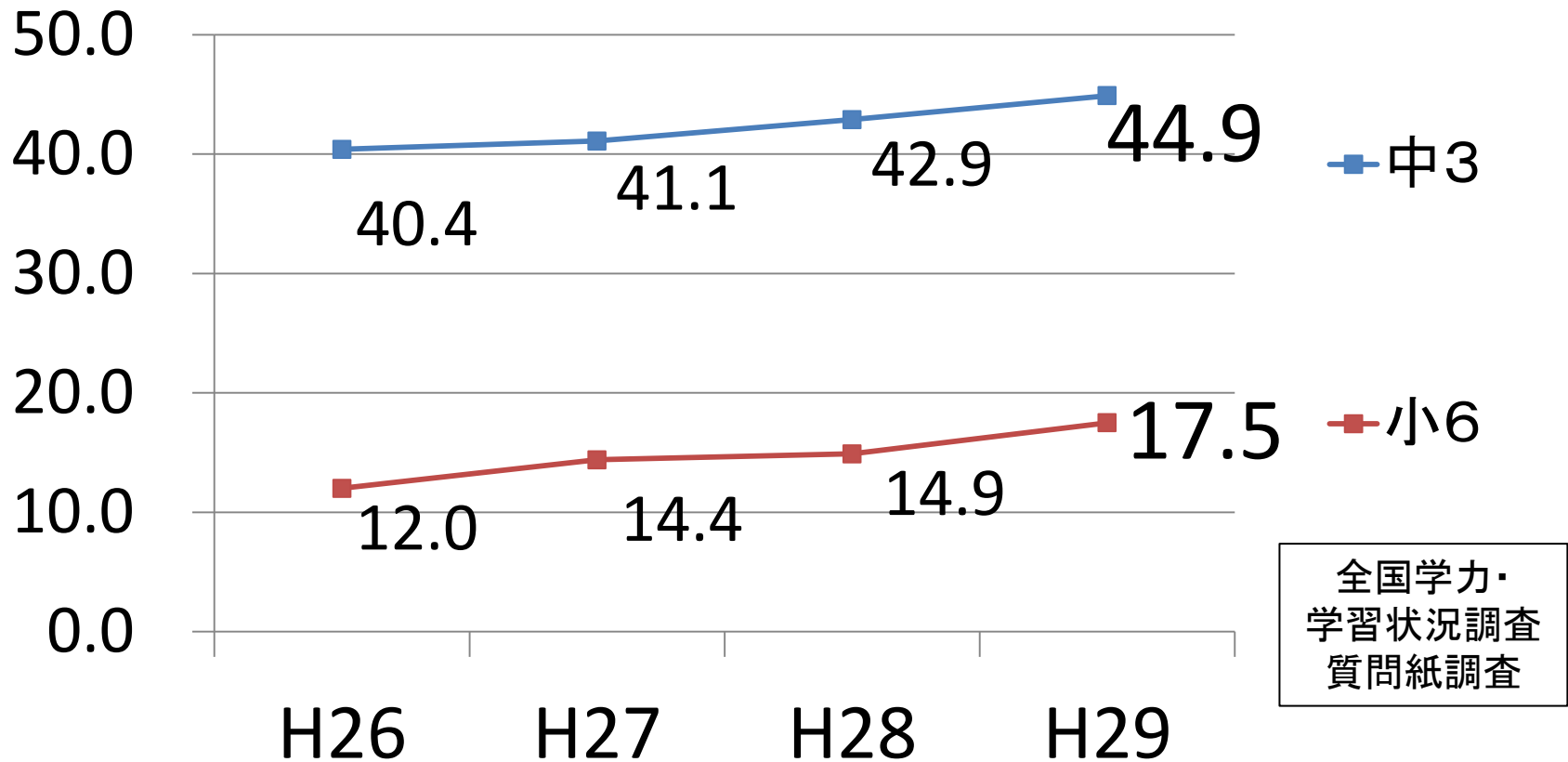
## Ⅱ 現状と課題

### 県内の小学校6年生及び中学校3年生の 携帯電話及びスマートフォンの所持率



## Ⅱ 現状と課題

1日1時間以上、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしている県内の小学校6年生及び中学校3年生の割合 (%)



## Ⅱ 現状と課題

平日（月～金曜日）、1日に3時間以上、テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見ている小学校5年生及び中学校2年生の割合（%）

	小学5年生男子		小学5年生女子	
	全国	岩手県	全国	岩手県
3時間以上 見ている 児童の割合	38.1	35.1	29.1	28.8

	中学2年生男子		中学2年生女子	
	全国	岩手県	全国	岩手県
3時間以上 見ている 生徒の割合	36.5	28.1	35.2	28.0

H30全国体力・運動能力、運動習慣等調査

## Ⅱ 現状と課題

取組状況については一定の高まりが見られるものの、その成果について十分に確認・共有されていない(明らかになっていない)



全県共通課題  
「情報メディアとの  
上手な付き合い方」

のみならず



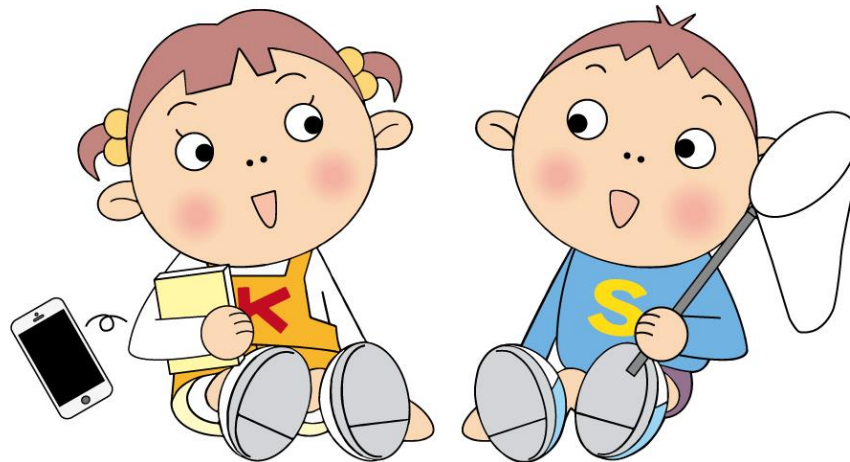
地域の教育課題  
「多様な体験、交流  
活動等」

においても、同様の傾向

教育振興運動の取組全般にあてはまる  
長年の課題

## Ⅱ 現状と課題

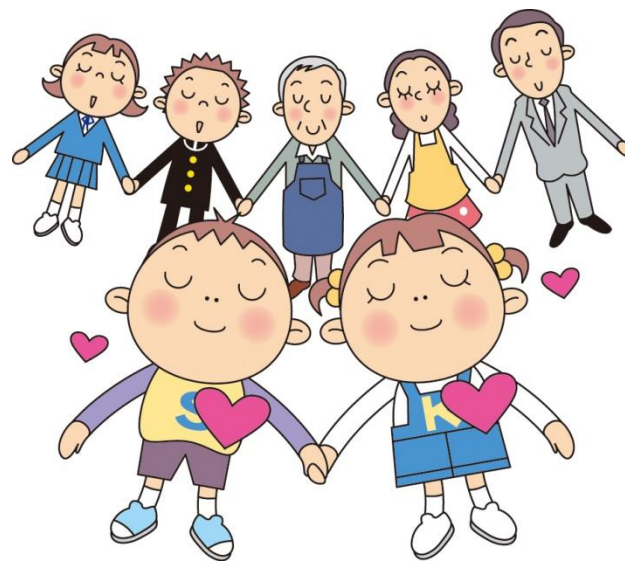
### 2 「地域と学校の連携・協働の体制」 について



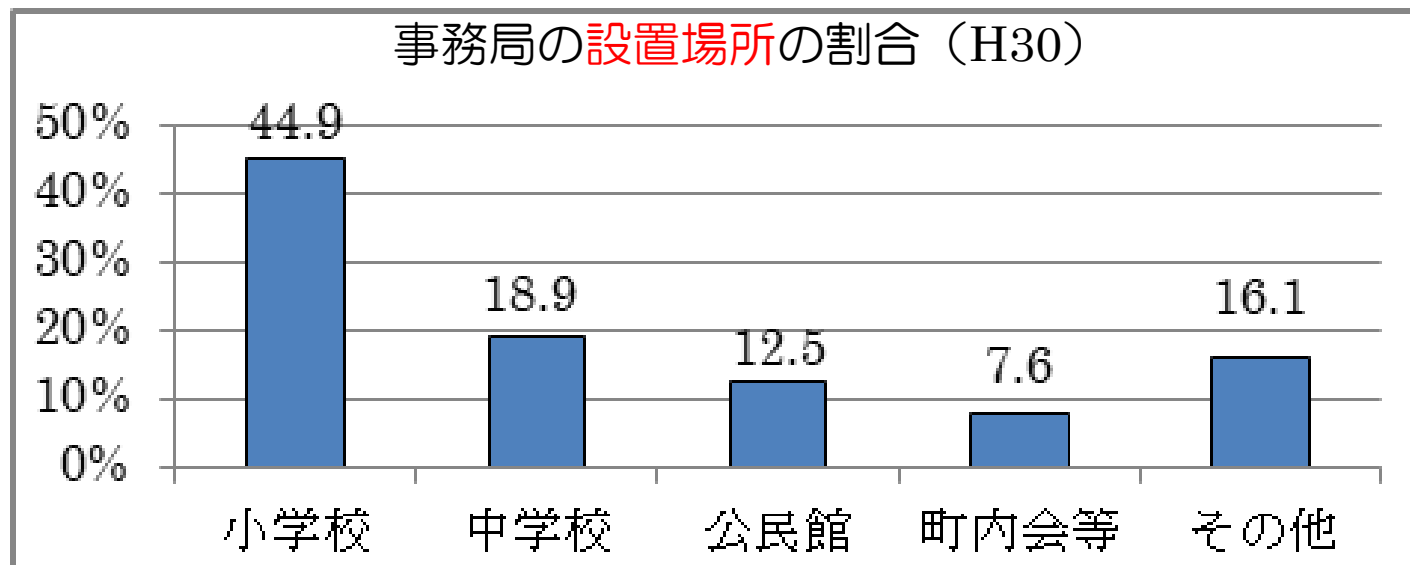
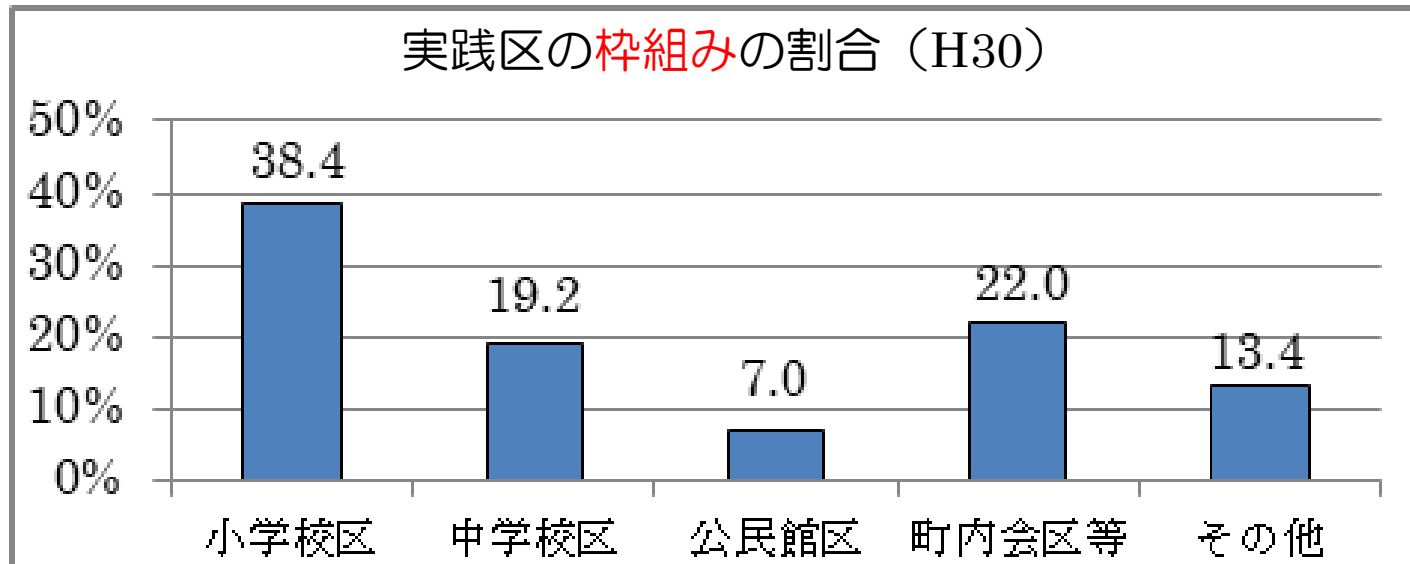
## Ⅱ 現状と課題

### 市町村の推進協議会・実践区

- ◇ 多くの市町村に運動推進のための協議会が設置され、さらに実践を進める地区（以後「実践区」）ごとに目標を立て運動を進めています。実践区は、小中学校や公民館、自治会など、各市町村の進めやすい単位で作られており、**30年度現在、県全体で500の実践区**があります。

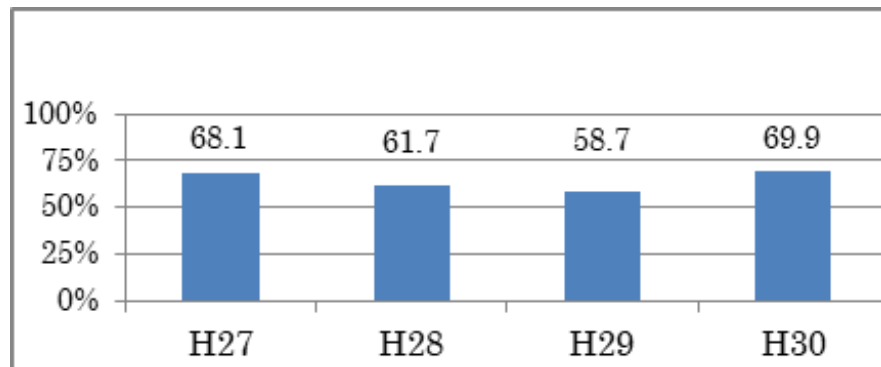
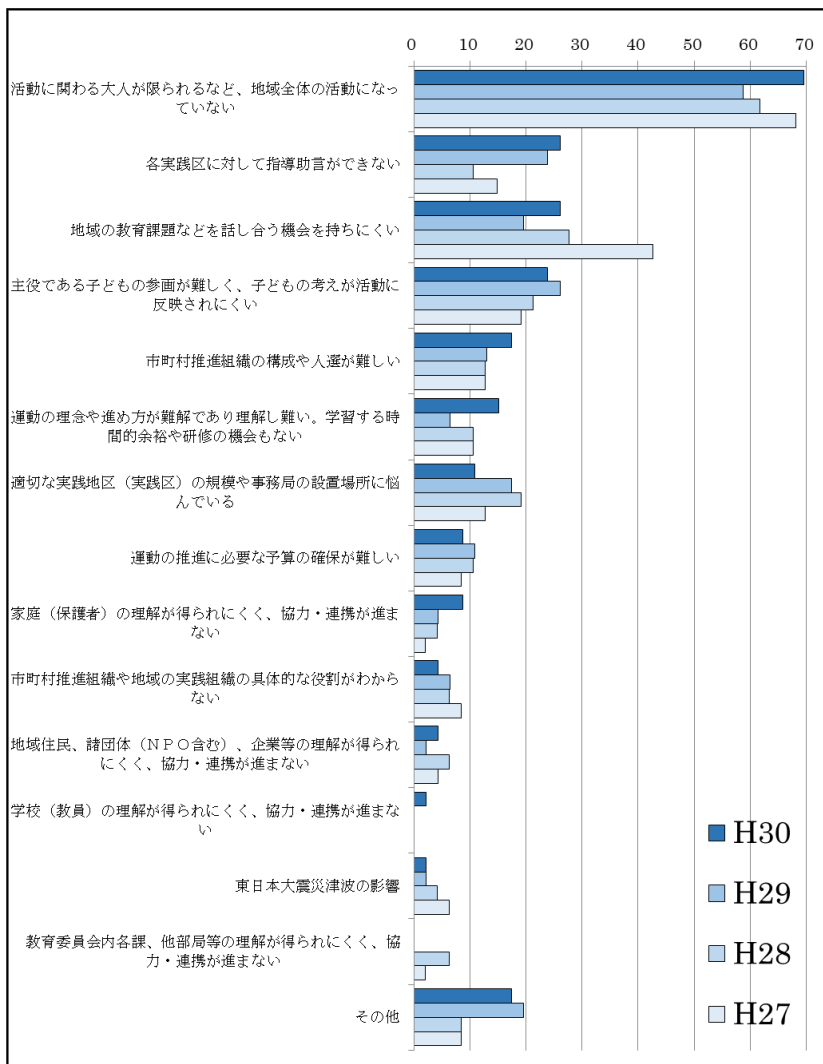


## Ⅱ 現状と課題



# Ⅱ 現状と課題

## 「推進体制に関する課題や悩み」について



県内の約8割の市町村・地区が、推進体制に関して何らかの課題や悩みを抱えています。

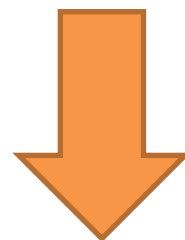


H30教育振興運動推進状況調査



## Ⅱ 現状と課題

推進体制に関する課題や悩み



### 平成30年度の「重点的取組」

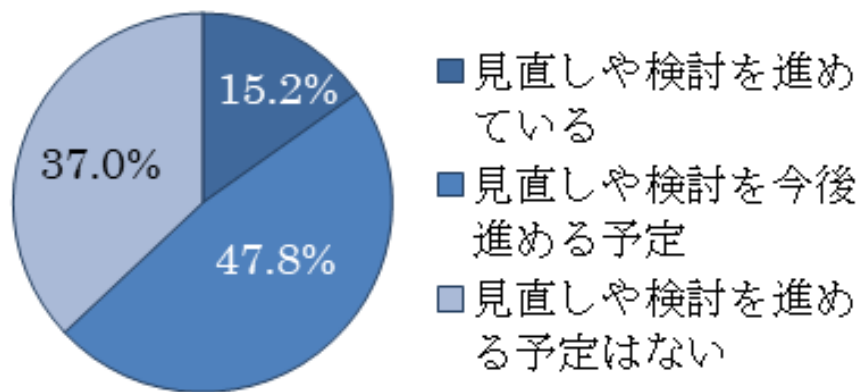
- 3 「適切（一部に負担が偏らない）で効果的な連携・協働」に留意しながら、地域の実状に応じ、持続的なくみを意識した**組織や活動のあり方等の見直しや検討を進める。**

## Ⅱ 現状と課題

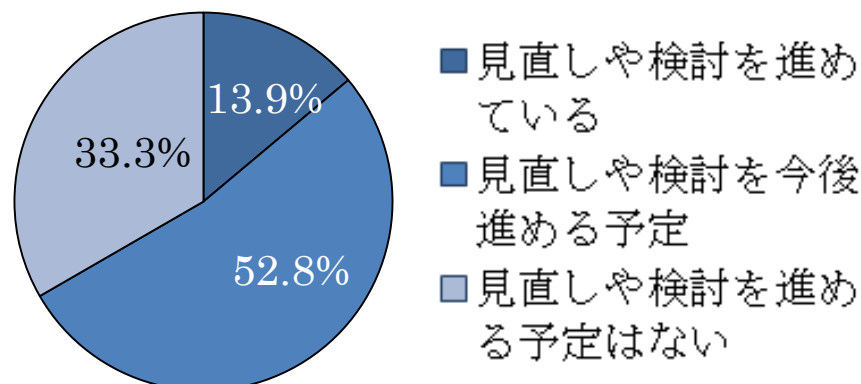
「組織や活動のあり方等の見直しや検討」

に係る取組状況(H30)

全市町村・地区



推進体制に関して何らかの課題や悩みを抱えている市町村・地区に限定



「課題感の有無」と「見直しや検討の進捗状況」について、**大きな相関は見られません。**

H30教育振興運動推進状況調査

## Ⅱ 現状と課題

多くの市町村・地区が推進体制について何らかの課題や悩みを抱えているにも関わらず、**具体的な見直しや検討を進めていない(進められない)**

「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)」の推進も踏まえ  
教育振興運動の体制を、地域や学校の実状に応じ  
**今後どのように活用していくのか**

**喫緊の課題**



**考え方を整理し、具体的に検討**

### Ⅲ 重点的取組

1 全県共通課題「情報メディアとの上手な付き合い方」の取組について、5年間の取組の成果を検証・共有するとともに、2020年度以降の取組の方向性を明らかにする。

2 組織的・持続的な推進体制の整備を目指し、推進組織や実践区のあり方、より広く地域住民が参画するしくみ等のための見直しや検討を進める。



## IV 課題解決を図るための取組の方向性（改善策の例）

### 1 [Ⅲ－1 全県共通課題] に関すること

(1) 「成果が十分に確認・共有されていない要因」として考えられること

ア 取組そのものが目的となっており、**課題解決の視点**が薄い。

イ 取組により**目指す成果（目指す子どもの姿）**が明確にされていない。

ウ 関係者による**目標の共有**が十分に行われていない。

エ **実態把握**が十分に行われていない。

## IV 課題解決を図るための取組の方向性（改善策の例）

### (2) 期待される取組（改善策）

ア PDCAサイクルのプロセスに基づき、課題解決を図る取組を展開する。

- ・ メディアの**利用実態**に基づき、**課題を解決**するための活動計画を立案する。
- ・ 子ども自身がメディアの利用について**主体的に考え実践する**活動を展開する。
- ・ 活動後には、事前に設定した「**目指す成果**」に基づき「**評価**」を行う。
- ・ 「集約集会」等の実施や「**報告書等の作成**」に際しては、「**活動内容**」に加え、「**課題解決を図るためのプロセス**」を関係者間で**共有**できる構成とする。
- ・ **評価を関係者全体で共有**するとともに、次年度の取組を構想する。

# IV 課題解決を図るための取組の方向性（改善策の例）

## (2) 期待される取組（改善策）

ア PDCAサイクルのプロセスに基づき、課題解決を図る取組を展開する。

※【PDCAサイクルに沿った計画書様式】（参考例）

プロセス	内 容	主題（取組）①<読書活動の推進>【例】
1 課題の掘り起 こしや重点化 A	<p>◆地域の教育課題や身につけさせたい力や態度など、めざす具体的な子どもの姿等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標的な表現方法でもよい。</li> <li>・ 学校のまなびフェストの内容の転記も考えられる。</li> </ul>	<p>○ 読書が好きな子どもに育てるために、ふさわしい環境づくりも進めよう。</p>
2 活動計画と子の役割分担 P	<p>◆課題解決に向けた取組内容やめざす子どもに近づけるための取組内容とそのための適切な役割分担</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「いつ」「どこで」「誰が」「何を」「どのように」など、必要な項目を整理して計画する</li> <li>・ 単発的な取組だけでなく、継続的または複数年にわたる中期的な見直しをもった取組もできれば検討してみる。</li> <li>・ 活動内容によっては、5者すべてに役割を配分できない場合もあると考えられる。</li> </ul>	<p>【子ども】 読書の楽しさに気づき、傍らに本を置く生活をめざして取り組む。</p> <p>【家 庭】 ①家庭毎に家族全員で読書に親しむためのルールを作り、居間に掲示して取り組む。 ②PTAによる学校図書館の環境整備</p> <p>【学 校】 ①朝読書の実施 ②学年毎の目標冊数の設定 ③図書委員会による「ビブリオバトル大会」の実施</p> <p>【地 域】 週1回の読書ボランティアによる学校での読み聞かせ会の実施</p> <p>【行 政】 ①読書推進員による週3日の学校図書館への巡回指導・司書業務支援 ②市町村立図書館による毎月の学校貸出</p>
3 活動の実施 D	<p>◆（活動の展開）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運営上の留意点など、活動を進めるうえで必要な事項を記載する。</li> </ul>	<p>① それぞれの取組のようすの周知を図るために、月に1回は、学校通信の記事に取り上げてもらおう。</p> <p>② 「家庭の読書ルール」については、各家庭で2か月毎に振り返り（4段階評価）をし、記録してもらおう。</p>
4 反省と評価 C	<p>◆取組の結果や成果、運営の振り返り、次年度への課題など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ できれば、結果や成果に関する指標（目標値）を設定し、どういった方法で評価するかについて事前に見直しをつけておくことが重要である。</li> <li>・ 学校のまなびフェストの検証方法を転用（または、学校が予定している評価検証方法に委ねる）することも可能であると考えられる。</li> <li>・ 成果や課題は、広報活動など、全体で共有する手だてを講じる必要がある。</li> </ul>	<p>目標値①「家庭の読書ルール」の家庭毎年間評価（4段階）の肯定的評価 80%以上 （→PTA教養部で地道する）</p> <p>目標値② 各学年の目標冊数達成児童の割合 80%以上（→まなびフェストで学校が検証する）</p> <p>○ 活動の成果と課題については、3学期のPTA広報紙で取り上げる。 （→PTA広報紙で対応する）</p>

【PDCAサイクルに沿った計画書様式】（参考例）  
「平成30年度 教育振興運動推進方針」に記載

各市町村・実践区で  
ぜひご活用ください。



## IV 課題解決を図るための取組の方向性（改善策の例）

### (2) 期待される取組（改善策）

イ 目指す成果（目指す子どもの姿）を明らかにし、関係者全体で共有する。

- ・ 可能な限り指標（目標値）を設定し、評価方法についても事前に見通しをつけておく。
- ・ 検証方法として、学校のまなびフェストを活用することも考えられる。

ウ 「話し合いの場の設定」や「各種広報紙の活用」などにより、目標の共有を図る。

エ メディアの利用実態やルールの順守状況を定期的に調査・集約する。



## IV 課題解決を図るための取組の方向性（改善策の例）

### 2 [Ⅲ-2 推進体制の整備] に関すること

(1) 「推進体制の見直しや検討を進められない要因」  
として考えられること

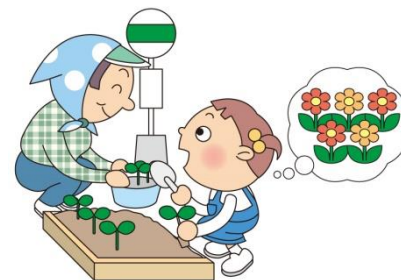
- ア 地域全体の活動とするための手立てが分からない。
- イ 適切な組織構成がどのようなものか、判断が難しい。
- ウ コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の推進を踏まえ、教育振興運動の体制をどのように活用していくか、考え方の整理が難しい。
- エ 推進体制の見直しや検討を進めるマンパワーが足りない。

# IV 課題解決を図るための取組の方向性（改善策の例）

## (2) 期待される取組（改善策）

ア 他市町村の先進的な取組を参考にし、取組や見直し・検討を進める。

- ・ 人材の確保に向けて、子どもたちとふれ合う楽しさを感じてもらうなど、活動に興味・関心をもってもらうことから進める取組 等



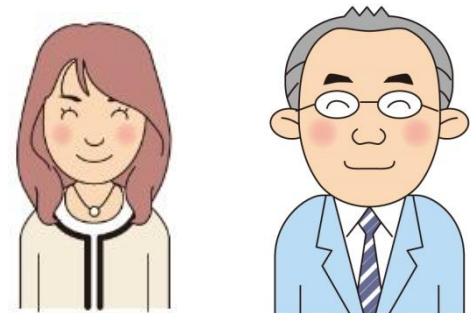
- ・ 組織的・持続的に推進できる体制を目指し、教育振興運動の組織を再構築している県内自治体の取組 等

## IV 課題解決を図るための取組の方向性（改善策の例）

### (2) 期待される取組（改善策）

イ 県教育委員会との連携・協働により、取組や見直し・検討を進める。

- 制度に関する説明や、先進的な取組に関する情報提供等、市町村のニーズに応じた支援を行います。
- 各教育事務所が実施する「教育振興運動地域活性化推進事業」により、教育事務所社会教育主事が各市町村を訪問し、推進体制の整備に係る継続的な支援を行います。



# 岩手県教育委員会

## 令和元年度「教育振興運動」推進事業（一部抜粋）

<p>教育振興運動市町村 担当者等研修会 (生涯学習文化財課)</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>■対象：市町村担当者、実践区リーダー、教育事務所担当者（指導主事・社会教育主事）</li><li>■趣旨：令和元年度の教育振興運動推進方針について周知を図るとともに、本県の地域学校連携・協働を推進するための方策を探る。</li><li>■期日：令和元年5月15日（水）</li><li>■会場：生涯学習推進センター</li></ul>
<p>地域とともにある学校づくり推進フォーラム・ 教育振興運動推進研修会 (生涯学習文化財課・教育事務所)</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>■対象：地域連携窓口教員、実践区リーダー、市町村担当者等</li><li>■趣旨：各地区における円滑かつ効果的なコミュニティ・スクールの導入やその取組方策、「学校を核とした地域づくり」を効果的に進めるためのこれからの教育振興運動のあり方等について理解を深める。</li><li>■期日：6月～7月</li><li>■会場：各教育事務所管内</li></ul>
<p>いわて地域学校協働活動 推進フォーラム・教育振興 運動55周年集約大会 (生涯学習文化財課)</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>■対象：運動関係者、県民 等</li><li>■趣旨：「みんなで教振！5か年プラン」の取組の成果を検証・共有するとともに、令和2年度以降の取組の方向性を明らかにする。</li><li>■期日：令和2年1月15日（火）</li><li>■会場：小田島組☆ほ～る（いわて県民情報交流センター）</li></ul>
<p>教育振興運動地域活性化 推進事業 (教育事務所)</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>■対象：市町村、実践区、学校等</li><li>■趣旨：市町村や実践区、学校等における「みんなで教振！5か年プラン」の取組や、組織的・持続的な推進体制の整備を支援し、運動の更なる活性化を図る。</li><li>■期日：通年</li><li>■会場：各教育事務所管内</li></ul>

# 令和元年度「教育振興運動」推進方針

岩手県教育委員会

令和元年度「教育振興運動」推進方針  
岩手県教育委員会

**I 目標**  
「みんなで教養！5か年プラン」の取組の成果を検証・共有するとともに、「いわて優良計画 2019-2028」及び「岩手県教育振興計画」に基づき、教育振興運動の発展・拡充を図ります。

**II 現状と課題**  
1 全県共通課題「情報メディアとの上手な付き合い方」について  
(1) 現状  
昭和40年に取組が開始された教育振興運動は、以来、岩手県の教育環境の整備と共に大きな発展を遂げてきました。現在も、社会参加活動や自身体験活動などの多様な「地域学校活動」が県内各地で展開されています。  
平成27年度から取り組んできた「みんなで教養！5か年プラン」は、2019年度が最終年度となります。本プランの全県共通課題である「情報メディアとの上手な付き合い方」は、H30年度には県内のおよそ3/4の実践区（小・中・義務教育学校の約9割）において継続的に取り組まれています。  
また、これまで目指してきた「全県共通課題の取組と、子どもの未来のために価値のある活動（読書活動、体験・交流活動等）の相乗効果を期す考え（『教育的な活動』に留まらず取組）」についても、H30年度調査\*において約9割の市町村・地区から「両者がバランスよく推進されている」という回答を得ており、5か年プランの取組が県内各地域で確実に推進されてきたことがわかります。  
しかしながら、「情報メディアとの上手な付き合い方」に取り組んだ成果については、H30調査において「非常に高い」「おおむね満足できる」成果があるも回答した市町村・地区はおよそ1/4であり、「成果を上げつつある」という回答割合を加えても、なんらかの成果を認めている市町村・地区は全体の3/4程度に留まっているのが現状です。  
(2) 課題  
取組状況については一定の成果が見られるものの、その成果については十分に検証・共有されていない（明らかになっていない）傾向にあることが、全県共通課題の推進に関する大きな課題であるといえます。  
また、H30及び過去の調査結果から、この課題は、全県共通課題の推進のみならず、教育振興運動の取組全般にあてはまる長年の課題であるということがわかります。

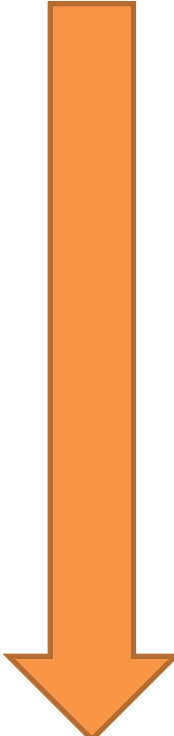
全県共通課題と相乗の教育的価値の取組（H30）

非常に高い成果	6.9%
おおむね満足できる成果	4.3%
成果を上げつつある	84.8%
成果があるが確かな	
成果が認められない	

全県共通課題の取組による成果（H30）

非常に高い成果	2.2%
おおむね満足できる成果	14.3%
成果を上げつつある	21.7%
成果があるが確かな	21.7%
成果が認められない	50.0%

\*1 「教育振興運動推進状況調査」  
教育振興運動の推進体制や取組状況を把握することを目的に、各市町村における運動推進担当者を対象に県教委が毎年実施している調査。



各市町村・実践区でぜひご活用ください。



持続的な仕組みや活動として  
さらに充実させていきましょう！

# ☆教育振興運動イメージソング「Hand In Hand」

教育振興運動イメージソング「Hand In Hand」は、「地域の絆、人と人とのつながり」を大切にし、地域ぐるみで子どもを育む環境をつくっていく旗印として、平成23年度に岩手県が作成しました。

(歌詞は県内の小学生・中学生、地域の皆さんから公募)



地域の絆、人と人をつなぐを大切にしよう!  
平成23年度学びを通じた地域の地域コミュニティ共生実現事業

1. Hand In Hand
2. ココロの風
3. Hand In Hand (カクソク)
4. ココロの風 (カラオケ)

うた: 清心

「教育振興運動」は、子ども・家庭・学校・地域・行政の5者が連携を促して地域の教育課題の解決に切りぬき、手携し合いの教育運動です。昭和40年に始まり、現在、県内すべての市町村において展開されています。「イメージソング」は「地域の絆・人と人をつなぐを大切にし、地域ぐるみで子どもを育む環境をつくっていく旗印として、県内全小中学校、市町村教育委員会・教育振興運動推進協議会等に提供することをしています。

企画: 株式会社VOCAL MUSIC AGENCY | 発行: 教子英子母・学長・地域推進員による教育実践推進協議会  
このCDは無料配布の地域づくり推進費で製作された。個人での複製を認めず、無断で複製することはできません。また、このCDを譲渡・貸与・複製した場合は責任を負いません。

KVCD-004

教育振興運動イメージソング  
清心

# ☆教育振興運動関係の資料はこちらから

岩手県生涯学習情報提供システム

## 「まなびネットいわて」

http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/

Category	Description
教育振興運動 啓発資料	学習定着度調査の結果に基づいて設定された「全県共通課題」への流れ、全国と岩手県の児童や生徒の家庭学習時間、読書時間、テレビ視聴時間等の資料を掲載しています。教育振興運動への意識を啓発する、実態を把握し課題を洗い出す等に使ってみてください。
教育振興運動メルマガ	平成21からの教振メルマガのバックナンバーをpdf形式で閲覧、ダウンロードできます。※メルマガ内の事例紹介に記載されているURLをクリックしても、資料は表示されません。下記の事例や紹介資料のコーナーから探して閲覧してください。
全県共通課題の事例	平成21・22・24年度のメルマガで取り上げた全県共通課題の事例集を課題別に整理して掲載しています。pdf形式なので、容易にダウンロードが可能です。
全県共通課題の達成状況	平成21年度～26年度の全県共通課題の達成状況をまとめたものを掲載しています。
全県共通課題の資料	平成27年度からの全県共通課題～情報メディアとの上手な付き合い方～についての資料を掲載しています。
教育振興運動実践事例	平成24年度に各市町村でおこなわれた教育振興運動の実践事例等を掲載しています。
紹介資料	平成21・22・23・24年度のメルマガで取り上げた事例に関わる実践資料等を掲載しています。
全県共通課題啓発ポスター(pdf形式)	平成18年度地域教育力向上支援事業「地域連携推進ハンドブック」 表紙(1.23MB) 先刊のこと(表紙1.28MB) 教員の仮面(1.40MB) 実践例1～5(2.19MB) 8～9(1.66MB) 10～13(1.91MB)
学校支援ボランティアハンドブック	PDF形式
〇ロゴマーク(pdf形式)	